令和 8 年度

教　授　細　目（後期）

＜1 年生＞

1. 化学
2. 行動科学
3. 英会話
4. 保健体育
5. 生化学
6. 口腔解剖学
7. 口腔組織・発生学
8. 口腔生理学
9. 病理学・口腔病理学
10. 薬理学・口腔薬理学
11. 医療倫理
12. 歯科材料学
13. 歯科保健指導論講義
14. 歯科診療補助論講義
15. 手話
16. 歯科予防処置論実習
17. 歯科保健指導論実習
18. 歯科診療補助論実習

＜2 年生＞

1. 歯科保健統計学
2. 口腔外科学
3. 小児歯科学
4. 高齢者歯科学Ⅰ
5. 臨床検査法
6. 障害者歯科学
7. 歯周病予防処置
8. 栄養代謝学Ⅱ
9. 歯科予防処置論実習
10. 歯科保健指導論実習
11. 歯科診療補助論実習

＜3 年生＞

1. 隣接医学
2. 看護保健論

一般社団法人　岡山県歯科医師会立

岡山高等歯科衛生専門学院

令和 8 年度　授業計画

授業科目	【講義】化学		担当者	青木　宏之	一般
時期	1 年次　後期	必修	単位(時間数)	1 単位(15 時間)	
到達目標	種々多様な歯科材料を扱う歯科医療の現場では、それら歯科材料の構造および化学的性質を理解するため、物質の構成要素（原子・分子）やそれらの成り立ちを学ぶ“化学”の基礎的な知識が必要とされる。この講義では、身近な生活の場に登場する日用品がどのような化学的物質で構成されているかを学び、化学への興味・関心を高めつつ、化学の基本的な概念を理解し、身の回りの現象を化学的に見る力を養うことを到達目標とする。				

回数	内　容
1	【物質とは何だろう】 私たち自身や身の回りは原子・分子と呼ばれる非常に小さな基本粒子で構成された物質で出来ています。これまでに確認されている物質(化合物)は 2 億種類を超え、日々増え続けていますが、これらすべては、118 種類の限られた元素のみからできています。ここでは、原子・電子・分子そして物質の成り立ちを解説します。
2	【気体について知ろう】 物質はそれを構成する原子・分子の運動性から 3 つの状態（固体・液体・気体）を持ちます。ここでは、原子・分子の運動性と熱との関係を理解するために、気体（空気、水蒸気、二酸化炭素など）のもつ性質について、温度・圧力・体積の関係を解説します。
3	【物質が水に溶けるとは】 生命活動に大変重要な液体“水”は、他の物質を取り込む（溶かす）性質に優れています。ここでは、“水に物質が溶ける”現象を、水分子の構造の特徴や水分子と他分子との間に働く力(分子間力)から解説します。
4	【すっぱい！苦い？（酸とアルカリの性質】 私たちが感じる“すっぱい！苦い？”ものは、それらを構成している分子の種類から生まれます。ここでは、すっぱい(酸性)にかかわる“水素イオン”や苦い（アルカリ性）に関わる“水酸化物イオン”について解説します。
5	【酸化とは、還元とは】 物質が燃えたり、金属が錆びたりする現象は、空気中の“酸素との結びつき”(酸化)から生まれ、逆に、物質から“酸素を奪う”(還元)も同時に存在します。ここでは、酸化および還元反応に関わる、酸素・電子の振る舞いについて解説します。
6	【化学反応では原子の組換えがおこっている】 私たちの体の中では、日々休まず、“代謝”と呼ばれる化学反応(反応物から生成物が生まれる)から新たな物質がつくられています。ここでは、これら化学反応の速さが濃度、温度、分子の構造によってどのように変化することを解説します。
7	【化学平衡ってなんだろう】 化学反応では、見かけ上反応の進行が止まっているように見える状態(平衡)が存在します。この平衡状態にある可逆反応が、どのような条件で平衡状態を形成し、また、新たな平衡を獲得するかを解説します。
8	【有機化合物とは何だろう】 炭素原子を中心に、水素、窒素、酸素、硫黄、ハロゲン等が互いにどのように結びつき、極めて多くの種類の化合物（有機化合物）を形成することが出来るのか？　二つの原子間での電子の共有から生じる共有結合や代表的な有機化合物の構造とその化学的性質を解説します。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価の方法	講義ノート・課題演習レポート・定期試験により総合評価する。
テキスト	歯科衛生学シリーズ　化学　全国歯科衛生士教育協議会　監修（医歯薬出版）
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】行動科学		担当者	鉄川　大健	実務
時期	１年次　後期	必修	単位（時間数）	１単位（15 時間）	
到達目標	保健医療現場で求められる行動科学的テーマについて考える				

回数	内　　容
1	**患者とのコミュニケーション①：** ヒトのコミュニケーションの在り方と患者に“安心”を与えるコミュニケーションを理解する
2	**患者とのコミュニケーション②：** 患者との“ラポール”の形成と治療につなげるためのコミュニケーションを理解する
3	**集団協働場面におけるヒトの行動：** 集団協働場面を模擬的に体験し、集団協働（“チーム医療”）のメリットデメリットに気づく
4	**心理学的アプローチによる医療事故防止：** ヒトが集まった際に生じる行動の不思議と“チーム医療”が生み出す集団デメリットを理解する
5	**医療者としての適性と医療者の仕事とストレス：** 医療者に求められる行動と医療者に起こりうる“不適応行動”について理解する
6	**健康行動変容と健康心理カウンセリング：** 患者の健康行動と行動変容についての理解と“行動変容ステージモデル”を応用する
7	**ヒトの行動に潜む文化：** 対人相互作用場面を模擬的に体験し、ヒトの行動に潜む“文化”に気づく
8	**患者の行動を理解するための異文化理解：** 患者の行動に潜む“文化”を理解して患者の行動を理解する
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価の方法	各講義における小レポート、および期末試験
テキスト	全国歯科衛生士教育協議会監修　心理学　医歯薬出版株式会社
参考書	講義中に適宜紹介

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義･実習】英会話		担当者	キャサリン・ティラー	一般
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	1 単位（15 時間）	
到達目標	日常英会話力の修得および歯科専門英単語を学ぶ				

回数	内　　容
1	Dental Vocabulary 1
2	Patient Instructions 1
3	Patient Instructions 2
4	Patient Questions
5	Conversation Skills with Patients
6	Health Questions
7	Booking an Appointment
8	Dental Vocabulary 2
9	Review
10	Oral Test
11	Oral Test
12	Oral Test
13	
14	
15	

成績評価の方法	口頭試問：コミュニケーション能力とボキャブラリー
テキスト	
参考書	参考書ではありませんが、講師の作成した資料を使用します。

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義･実習】保健体育		担当者	吉田　　升	一般
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	健康寿命の延伸は、少子高齢化の進む日本において急務の課題となっている。健康づくり及び体力づくりに関する知識を深め、生涯にわたって健康づくりを考えられるようになることを到達目標とする。				

回数	内　　容
1	オリエンテーション →授業ガイダンス
2	講義 →運動と循環Ⅰ
3	講義 →運動と循環Ⅱ
4	講義 →運動と血圧
5	演習 →身体活動と血圧
6	講義 →発育と発達
7	講義 →運動と呼吸
8	演習 →エネルギー消費量の測定
9	講義 →運動と筋肉
10	演習 →筋力トレーニングの方法
11	講義 →運動と体温
12	講義 →運動と内分泌
13	講義 →運動と神経・感覚
14	講義 →運動と血液・尿
15	講義 →健康の維持・増進

成績評価の方法	出席状況(25%)＋提出物(25%)＋期末試験(50%)
テキスト	
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】生化学		担当者	西田　　崇	実務　（ 歯科医師 ）
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	口腔保健のプロフェッショナルとしての歯科衛生士が必要とする人体の生命現象を分子レベルの化学反応の観点から理解するために、人体の代謝と機能に関する基本的な知識を習得する。				

回数	内　　容
1	Ⅰ編：人体の代謝と機能 人体の構成要素
2	Ⅰ編：人体の代謝と機能 人体の構成要素と栄養素
3	Ⅰ編：人体の代謝と機能 人体における化学反応
4	Ⅰ編：人体の代謝と機能 糖質の代謝
5	Ⅰ編：人体の代謝と機能 脂質の代謝
6	Ⅰ編：人体の代謝と機能 タンパク質・アミノ酸の代謝
7	Ⅰ編：人体の代謝と機能 遺伝子とタンパク質合成
8	Ⅰ編：人体の代謝と機能 人体の恒常性の維持・刺激の受容と反応
9	Ⅱ編：口腔の代謝と機能 結合組織
10	Ⅱ編：口腔の代謝と機能 歯の構成要素
11	Ⅱ編：口腔の代謝と機能 硬組織の生化学・骨形成・骨吸収
12	Ⅱ編：口腔の代謝と機能 血清カルシウムの恒常性とその調整機構
13	Ⅱ編：口腔の代謝と機能 唾液の生化学
14	Ⅱ編：口腔の代謝と機能 プラークの生化学・う蝕
15	Ⅱ編：口腔の代謝と機能 炎症・歯周病

成績評価の方法	講義への出席点と期末試験
テキスト	医歯薬出版【歯科衛生学シリーズ】人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学
参考書	授業毎に配布する資料

令和８年度　授業計画

授業科目	口腔解剖学		担当者	北原　和樹	実務　（ 歯科医師 ）
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	専門職として口腔および隣接する諸器官の構造と機能を理解し、口腔ケアの重要性を実践・発信できるだけの知識を修得する。				

回数	内　　容	
1	口腔に関連する全身解剖を理解する。	解剖学の教科書
2	口腔と周囲組織の解剖を理解する（Ⅰ）。	教科書　P2～11、P163～167
3	口腔と周囲組織の解剖を理解する（Ⅱ）。	教科書　P2～11
4	口腔を構成する骨を理解する（Ⅰ）。	教科書　P11～26
5	口腔を構成する骨を理解する（Ⅱ）。	教科書　P11～26、P161～164
6	頭頸部の筋と作用について理解する（Ⅰ）。	教科書　P26～35
7	頭頸部の筋と作用（Ⅱ）、顎関節の構造を理解する。	教科書　P26～37
8	口腔周囲の脈管について理解する。	教科書　P38～49
9	中間試験	解剖学の教科書 教科書　P2～49、P161～167
10	中間試験の解説講義、口腔周囲の神経について理解する（Ⅰ）。	教科書　P49～61
11	口腔周囲の神経について理解する（Ⅱ）。	教科書　P49～61
12	口腔周囲の神経（Ⅲ）、味覚について理解する。	教科書　P49～61、P200～207
13	唾液腺の解剖と唾液の機能について理解する。	教科書　P62～63、P260～270
14	咽頭と喉頭の構造について理解する。	教科書　P63～71
15	総まとめ	教科書　P2～71、161～167、 200～207、260～270

成績評価の方法	中間試験・定期試験、授業態度
テキスト	歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 人体の構造と機能　解剖学・組織発生学・生理学
参考書	配付資料

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】口腔組織・発生学		担当者	今村　高行	実務　（ 歯科医師 ）
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	・顔面・口腔領域、および歯の発生と組織構造・機能を理解し、概説できる。 ・歯科衛生士業務に必要な口腔・歯の組織構造の知識を習得する。				

回数	内　　容
1	**発生学** ＜顔面と口腔の発生　Ⅰ＞顔面・口腔の発生過程と先天性奇形の発生を学ぶ。
2	＜顔面と口腔の発生　Ⅱ＞
3	＜歯の発生　Ⅰ＞　歯の起源、発生過程について学ぶ。
4	＜歯の発生　Ⅱ＞
5	＜歯の発生　ⅡⅠ＞ ＜歯の萌出と脱落＞
6	**まとめ：発生学**
7	**中間試験　解答解説**
8	**歯の組織構造と機能**　歯の組織構造と機能を学ぶ。 ＜歯の組織　Ⅰ＞　エナメル質（1）
9	＜歯の組織　Ⅱ＞　象牙質・歯髄複合体（1）：象牙質
10	＜歯の組織　Ⅲ＞　象牙質・歯髄複合体（2）：歯髄
11	セメント質　＜硬組織の石灰化＞ ＜歯の脱灰と再石灰化＞
12	**歯周組織の組織構造と機能**　歯周組織の組織構造と機能を学ぶ。 ＜歯周組織　Ⅰ＞　歯根膜・歯槽骨
13	＜歯周組織　Ⅱ＞　歯肉
14	**口腔組織の組織構造と機能**　口腔組織の組織構造と機能を学ぶ。 ＜口腔粘膜、唾液腺および舌　Ⅰ＞　口腔粘膜、舌、唾液腺
15	**まとめ：口腔組織学**

成績評価の方法	出欠状況、講義受講態度，提出物（レポートなど） 中間試験、学期末試験
テキスト	歯科衛生学シリーズ　解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ　口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 歯科衛生学シリーズ　生化学・口腔生化学
参考書	イラストでわかる歯科医学の基礎（永末書店）

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】口腔生理学		担当者	西田　明弘	実務　（ 歯科医師 ）
時期	１年次　後期	必修	単位（時間数）	１単位（15 時間）	
到達目標	人体の基本的なメカニズムと生命現象の基本および生体の恒常性（ホメオスタシス）を理解した上で、将来歯科衛生士として不可欠な口腔の生理学的な知識を習得する。				

回数	内　　容	
1	口腔生理学概論	口腔生理学とは何か、口腔生理学の概要について
2	歯と歯周組織①	歯の硬組織の生理、化学的性質、歯髄・歯周組織の生理、歯の動揺度、離開度について
3	歯と歯周組織②	歯の硬組織の生理、化学的性質、歯髄・歯周組織の生理、歯の動揺度、離開度について
4	歯と口腔、顔面の感覚	歯の感覚と口腔の感覚について
5	味覚と嗅覚	味覚と嗅覚の役割、神経機構、味覚障害と嗅覚障害について
6	咬　合	咬合、下顎位、下顎の運動、限界運動、顎反射について
7	咀嚼・吸啜	咀嚼の意義と咀嚼運動、咀嚼能力、歯ぎしりについて
8	嚥下と嘔吐	嚥下・嘔吐のメカニズムについて
9	発声・発語	発声機構の概要、声の生成、歯・口腔の病態と発音、オーラルフレイルについて
10	フレイル オーラルフレイル	フレイルとオーラルフレイルについて
11	プラーク①	プラークによるう蝕の発症機構について
12	プラーク② 口臭	プラークによる歯周病の発症機構について 口臭の発症機構について
13	唾　液	唾液分泌機構、唾液の性状と成分、唾液の機能、唾液と疾患について
14	睡　眠 睡眠時無呼吸症候群	睡眠の基礎、睡眠障害について 睡眠の生理学的意義と睡眠時無呼吸症候群について
15	口腔生理学まとめ	

成績評価の方法	定期試験
テキスト	歯・口腔の構造と機能　口腔解剖学・口腔組織学・口腔生理学（医歯薬出版） 人体の構造と機能２　生化学・口腔生化学（医歯薬出版） 人体の構造と機能３　栄養学（医歯薬出版）
参考書	口の中がわかる歯科口腔科学読本（クインテッセンス出版株式会社）

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】病理学・口腔病理学		担当者	福江　善朗	実務　（ 歯科医師 ）
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	病理学を通じて様々な病気の成り立ちを理解し、病気の予防や治療に必要な知識を身につける				

回数	内　　容
1	１章、２章　病理学についての理解。病因論についての理解、遺伝性疾患と先天異常について
2	３章　循環障害について：虚血、うっ血、充血の違いを理解する 閉塞性循環障害について：血栓症、塞栓症、梗塞などの違いについて理解する
3	４章　代謝障害と退行性病変；変性や代謝障害の種類や成り立ち、壊死・壊疽・アポトーシスなどの違いを理解する
4	５章　増殖と修復：進行性病変の理解、創傷治癒や再生などの成り立ちを理解する
5	６章－①　炎症についての理解を深める（炎症時の臨床所見や経時的変化、分類や特徴など）
6	６章－②　免疫についての理解を深める（液性免疫や細胞性免疫の違いやアレルギー反応・自己免疫疾患など）
7	７章　腫瘍について：定義・原因・発生機序・組織学亭特徴などについて理解を深める
8	各論１章　歯の発育異常について
9	各論２章　歯の損傷と着色・付着物について 各論３章　う蝕について：病因や発生機序、組織学的変化について
10	各論４章　象牙質・歯髄複合体の病態について：歯髄炎の原因と分類、臨床学的特徴と組織学的特徴などを理解する
11	各論５章　歯周組織の病態：根尖性歯周炎の病因や分類、辺縁部歯周組織の病変についての理解を深める
12	各論６章　口腔粘膜病変について：各疾患の成り立ちや組織学的特徴などを理解する
13	各論７章　口腔領域の嚢胞と腫瘍について：それぞれの疾患の定義や分類などを理解する
14	各論８章　口腔癌について：前がん病変の特徴を含め構造異型や細胞異型などを理解する 各論９章　顎骨の病変について：骨髄炎や顎放線菌症、薬剤性顎骨壊死などについて理解する
15	各論１０章　唾液腺病変について：分類とそれぞれの特徴について理解する 各論１１章　奇形について理解する

成績評価の方法	定期試験
テキスト	疾病の成り立ち及び回復過程の促進１　病理学・口腔病理学（医歯薬出版）
参考書	口の中がわかるビジュアル歯科口腔科学読本（クインテッセンス出版）

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】薬理学･口腔薬理学		担当者	金田　崇文	実務　（ 薬剤師 ）
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	歯科医療での薬剤の取扱いに関する基本を理解し、治療内容とそれに関連する薬物の関係を理解する				

回数	内　　容
1	薬物の作用・薬物動態・薬物の適用方法の種類と特徴
2	薬物の作用に与える要因・薬物の副作用／有害作用・注意点・取り扱い・法律
3	ビタミンとホルモン
4	末梢神経系に作用する薬物
5	中枢神経系に作用する薬物
6	循環器・腎臓に作用する薬物
7	呼吸器・消化器系に作用する薬物
8	血液に作用する薬物
9	免疫・悪性腫瘍・代謝性疾患に作用する薬物
10	炎症・痛みに作用する薬物・麻酔薬
11	抗感染症薬・消毒に使用する薬
12	う蝕予防薬
13	歯内療法薬
14	歯周疾患治療薬
15	顎・口腔粘膜疾患と薬

成績評価の方法	定期試験、出席および授業態度
テキスト	疾病の成り立ち及び回復過程の促進３　薬理学
参考書	

授業科目	【講義】医療倫理		担当者	木村　里栄	実務　（ 歯科医師 ）
時期	1年次　後期	必修	単位（時間数）	1単位（15時間）	
到達目標	医の倫理について学び、医療と医療倫理の関わりについて理解を深める。 歯科衛生士としての心構えやインフォームド・コンセント、患者本位に基づいた対応などを習得して、 医療現場で倫理的な行動ができる基礎を身に付ける。				

回数	内　　容
1	なぜ医療倫理を学ぶのか？伝統的な医療倫理を学び、新しい医療倫理へ理解を深める。
2	医療倫理に関する規範と生命倫理学Ⅰ
3	医療倫理に関する規範と生命倫理学Ⅱ
4	インフォームド・コンセント
5	研究と医療倫理
6	医療倫理を考える上で必要な行動
7	復習・歯科衛生士の心構え
8	復習
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価の方法	出欠状況、受講態度、期末試験
テキスト	歯科衛生学シリーズ　歯科医療倫理学
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】歯科材料学		担当者	中　村　芳　章	一般
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	歯科材料学は、歯科医療に必要な材料および器械・器具の基礎と応用に関する学問であることから、各材料の用途、所要性質、種類、組成、硬化機構、操作方法および物性について理解し、説明できる。				

回数	内　　容
1	歯科材料の基礎知識、材料学と歯科衛生士、物質の構造、イオン結合、共有結合、金属結合、二次結合
2	金属材料、無機材料、有機材料および複合材料の一般的性質、　歯科材料の所要性質
3	歯科材料の物性（機械的性質、物理的性質、化学的性質、生物学的性質）、歯科医療領域の接着
4	歯面研磨材、小窩裂溝填塞材、口腔清掃用具
5	印象材：　その１、コロイド系（アルジネート印象材、寒天）
6	印象材：　その２、ゴム質系（シリコーンゴム印象材、ポリエーテル）、被弾性系、機能印象材
7	模型材：　石こうの種類（タイプ１～５）、硬化反応（機構）、混水比、物性
8	合着材・接着材：　その１、ポリカルボキシレート系セメント、(GIC, PCC)
9	合着材・接着材：　その２、　接着性レジンセメント、リン酸亜鉛セメント、小テスト
10	成形修復材料：　その１、　コンポジットレジン（CR）
11	成形修復材料：　その２、　グラスアイオノマーセメント（GIC）
12	仮封材、　暫間修復材と仮着用セメント
13	歯科用ワックス、金属およびセラミックスを主体とした歯科材料（テキスト記述内容解説）
14	小児歯科、歯科保存および歯科矯正にかかわる材料（テキスト記述内容解説）
15	歯科補綴にかかわる材料、人工歯、義歯床用、インプラン、CAD/CAM 等（テキスト記述内容解説）、小テスト

成績評価の方法	定期試験、自由作成問題等による総合評価
テキスト	歯科衛生学シリーズ　歯科材料　医歯薬出版
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】歯科保健指導論講義		担当者	山本　道代	実務　（ 歯科医師 ）
時期	1 年次 後期	必修	単位(時間数)	2 単位(30 時間)	
到達目標	歯科保健指導に必要な基礎的知識を習得し、患者や一般国民に対して指導を実践できる能力の獲得				

回数	内　容
1	歯科保健指導論総論
2	口腔の基礎知識(口腔の機能・摂食嚥下の仕組み)
3	う蝕と歯周病の基礎知識 (口腔内の付着物・沈着物，う蝕とは，歯周病とは)
4	保険行動支援のための基礎知識
5	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理①
6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理②
7	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報処理③
8	分析のためのデータ
9	歯科衛生介入としての歯科保健指導①　～口腔衛生管理にかかわる指導～
10	歯科衛生介入としての歯科保健指導②　～口腔機能管理にかかわる指導～
11	歯科衛生介入としての歯科保健指導③　～生活習慣・食生活の指導～
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入①　～妊産婦期・乳児期・幼児期・学齢期・青年期～
13	ライフステージに対応した歯科衛生介入②　～成人期・老年期～
14	配慮を要する者への歯科衛生介入
15	地域歯科保健活動における健康教育
16	総まとめ

成績評価の方法	定期試験、授業態度、レポート
テキスト	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】歯科診療補助論講義		担当者	清水　裕雄	実務　（ 歯科医師 ）
時期	1 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	歯科診療の現場において、診療内容を理解し、診療の流れに沿って歯科衛生士として活動するための知識を習得することを目的とする。				

回数	内　　容
1	１章　歯科診療補助の概要 ２章　医療安全と感染予防（医療安全）
2	２章　医療安全と感染予防（感染予防） （医療廃棄物の取扱い）
3	３章　歯科診療における基礎知識（基礎知識） （受診の流れ） （歯科領域に必要な臨床検査）
4	３章　歯科診療における基礎知識（画像検査）（薬品・薬物の管理） ４章　歯科診療補助における基礎知識（共同動作）（ラバーダム防湿）（歯肉圧排）
5	５章　歯科臨床と診療補助（保存修復）（歯内療法）（歯周外科治療）
6	５章　歯科臨床と診療補助（補綴治療）
7	５章　歯科臨床と診療補助（口腔外科治療）（歯科麻酔）（救急救命処置）
8	５章　歯科診療と診療補助（矯正歯科治療）（小児歯科治療）（妊産婦の診療）
9	５章　歯科診療と診療補助（高齢者の診療）（障害児・者の診療） ６章　歯科訪問診療における対応
10	７章　歯科診療で使用する歯科材料（印象採得）（光学印象）（模型の製作）（合着・接着の補助） 歯科診療で使用する歯科材料（成形修復の補助）（仮封・仮着の補助）（ワックス）
11	歯科材料（金属）（無機材料）（有機材料）（歯科衛生に係る材料）（印象材）（石膏）（合着・接着材）
12	歯科機器（超音波スケーラー・手用スケーラー）（マイクロスコープ・双眼ルーペ）（X 線撮影装置） （治療用レーザー）（インプラント関連器具）（超音波洗浄器・ウォッシャーディスインフェクター）
13	Ⅱ１章　主な全身疾患とその対応 Ⅱ２章　周術期における歯科診療補助
14	Ⅱ３章　口腔機能管理（口腔機能の種類）（成長発育）（口腔機能の検査と評価）（摂食嚥下障害と対応） 臨床検査値データ　最新の歯科事情
15	試験

成績評価の方法	定期試験
テキスト	歯科衛生学シリーズ：歯科診療補助論第２版、歯科材料、歯科機器（医歯薬出版株式会社）
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義･実習】手　話		担当者	庄田　正子 小川　由佳	実務
時期	１年次　後期	必修	単位（時間数）	１単位（15 時間）	
到達目標	聴覚障害者への理解を深めると共に、医療現場において、日常会話程度の手話ができる ことを目的とする。				

回数	内　　容	
1	講義「手話とは・コミュニケーション方法」	実技　身振り・伝言ゲーム・挨拶・自己紹介・指文字
2	「聴覚障害者とは」	数詞・誕生日・感情表現
3	ビデオ「私の大切な家族」 「聴覚障害者の社会生活」(1)	家族・趣味・医療用語
4	「聴覚障害者の社会生活」(2)	仕事・住所・医療用語
5	「聴覚障害者の社会生活」(3)	医療用語・医療会話Ⅰ
6	「聴覚障害者の社会生活」(4)	医療会話Ⅱ・Ⅲ・
7		医療会話Ⅳ・Ⅴ
8		まとめ
9		試験・答合わせ
10		
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価の方法	各自自己紹介を手話でスムーズに表現できているか 聞こえない人と医療用語を含んだ簡単な会話ができているか
テキスト	「聴者と学ぼう!」　(財団法人全日本ろうあ連盟出版局)
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	歯科予防処置論実習		担当者	古林　智子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	1 年次　後期	必修	単位(時間数)	2 単位(60 時間)	
到達目標	口腔疾患を予防し人々の歯･口腔の健康を維持･増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する				

回数	内　容
1･2	エキスプローラー（基本操作） プロービング（プローブの種類と使用目的、基本操作）
3･4	プロービング（PD、CAL・マネキン実習）
5･6	プロービング（練習問題・マネキン実習）
7･8	プロービング（相互実習）
9･10	プロービング（相互実習）
11･12	キュレット型スケーラー（講義・マネキン実習）
13･14	グレーシー型キュレット（講義・マネキン実習）
15･16	グレーシー型キュレット（マネキン実習）
17･18	グレーシー型キュレット（マネキン実習）
19･20	シャープニング　キュレット型スケーラー（グレーシー型 / ユニバーサル型）
21･22	超音波スケーラー（講義、マネキン実習）
23･24	超音波スケーラー（マネキン実習）
25･26	超音波スケーラー（相互実習）
27･28	プロービング ～ スケーリング（グレーシー型キュレット）　（相互実習）
29･30	プロービング ～ スケーリング（グレーシー型キュレット）　（相互実習） まとめ

成績評価の方法	期末試験　実習態度　提出物
テキスト	【歯科衛生学シリーズ】歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	歯科保健指導論実習		担当者	藤原　桂子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	１年次　後期	必修	単位(時間数)	１単位(30 時間)	
到達目標	口腔清掃法の重要性を知り、効果的な口腔清掃方法の知識を習得、実践し、考察する。				

回数	内　容
1	口腔ケア用具（粘膜ﾌﾞﾗｼ・ｽﾎﾟﾝｼﾞﾌﾞﾗｼ・ｸﾙﾘｰﾅﾌﾞﾗｼ・舌ﾌﾞﾗｼ・その他・保湿剤）
2	口腔ケア用具（粘膜ﾌﾞﾗｼ・ｽﾎﾟﾝｼﾞﾌﾞﾗｼ・ｸﾙﾘｰﾅﾌﾞﾗｼ・舌ﾌﾞﾗｼ・その他・保湿剤）
3	補助的清掃用具①
4	補助的清掃用具②
5	相互実習①／術者磨き
6	相互実習②／術者磨き
7	電動歯ﾌﾞﾗｼ・音波歯ﾌﾞﾗｼ・超音波歯ﾌﾞﾗｼの種類と特徴 口腔乾燥の検査・舌圧の検査について
8	口腔乾燥の検査、舌圧の検査、ブラッシングのテスト
9	口腔乾燥の検査、舌圧の検査、ブラッシングのテスト
10	口腔乾燥の検査、舌圧の検査、ブラッシングのテスト歯磨剤①
11	義歯の装着・義歯ブラシ・義歯洗浄剤
12	電動歯ﾌﾞﾗｼ・音波歯ﾌﾞﾗｼ・超音波歯ﾌﾞﾗｼ・ジェット水流洗口器　実習①
13	電動歯ﾌﾞﾗｼ・音波歯ﾌﾞﾗｼ・超音波歯ﾌﾞﾗｼ・ジェット水流洗口器　実習②
14	洗口液・洗口剤／まとめ
15	相互実習①
16	相互実習②

成績評価の方法	定期試験・授業態度・実習態度・実技試験・提出物・身だしなみ
テキスト	歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論　歯科材料
参考書	歯科衛生学シリーズ　保健生態学　　改訂歯ブラシ辞典 かとうひさこブラッシングガイド

令和８年度　授業計画

授業科目	歯科診療補助論実習		担当者	大島　詩織	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	１年次　後期	必修	単位(時間数)	１単位(30 時間)	
到達目標	・歯科診療で扱う歯科材料の特徴、種類、用途を理解することができる ・正確に口腔内の印象を採得し、スタディモデルを作製することができる				

回数	内　容
1	印象材の取り扱い①
2	印象材の取り扱い②
3	印象材の取り扱い③
4	印象材の取り扱い④
5	印象材の取り扱い⑤
6	印象材の取り扱い⑥
7	石膏の取り扱い①
8	石膏の取り扱い②
9	ラバーダム防湿①（マネキン実習）
10	ラバーダム防湿②（マネキン実習）
11	スタディモデル作製（相互実習）
12	スタディモデル作製（相互実習）
13	スタディモデル作製（相互実習）
14	まとめ
15.16	スタディモデル作製（相互実習）

成績評価の方法	定期試験、授業・実習態度、提出物、身だしなみ、スタディモデル
テキスト	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論　第２版、歯科機器、歯科材料
参考書	イラストと写真でわかる　歯科材料の基礎　第５版

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】歯科保健統計学		担当者	城山　博	実務　（ 歯科医師 ）
時期	2 年次 後期	必修	単位(時間数)	1 単位(15 時間)	
到達目標	歯と口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組みを学修する。具体的には患者および地域における歯科疾患の予防とコントロールの手法、それに必要な情報収集、診断、活動計画立案、成果評価について修得する。				

回数	内　容
1	歯科疾患の疫学的特性 ①歯科疾患の疫学的特徴を説明できる。②う蝕の疫学特性、歯周疾患の疫学特性について。
2	調査と統計（1） ①標本調査の必要性と無作為抽出方法を説明できる。②歯科疾患実態調査の概要を説明できる。 ③主要な歯科保健に関する国家統計を説明できる。
3	調査と統計（2） ①スクリーニング検査の意義と有効性の判定指標を説明できる。②度数分布表とヒストグラムを説明できる。 ③基本統計量を分類し、それぞれの特徴を説明できる。④正規分布の特徴を説明できる。
4	調査と統計（3） ①平均値の推定を説明できる。②統計的検定法の使い分けを説明できる。③質問紙調査の概要を説明できる。
5	地域歯科保健 ①地域歯科保健活動の進め方を説明できる。②健康日本 21 の意義と目標を説明できる。 ③歯科口腔保健に関する法律の意義と目標を説明できる。
6	母子歯科保健 ①妊産婦と乳幼児の口腔の特徴を説明できる。②幼児の法定歯科健康診査を説明できる。
7	学校歯科保健 ①学校保健の領域を分類できる。②学校三師の役割を説明できる。 ③学校歯科健康診断と事後措置を説明できる。
8	産業歯科保健 ①産業保健の仕組みを説明できる。②職業性歯科疾患の特徴と予防を説明できる。 ③職域における健康保持増進対策を説明できる。
9	成人・高齢者・要介護者・障害者の歯科保健 ①要介護者・障害者の歯科保健を説明できる。②災害時の歯科保健を説明できる。 ③国際歯科保健を説明できる。
10	まとめ講義（練習問題）
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価の方法	学期末定期試験 100％
テキスト	口腔衛生学－口腔保健統計を含む－　学建書院
参考書	特になし

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】口腔外科学		担当者	森田　巨樹	実務　（ 歯科医師 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	顎口腔領域の疾患とその病態が離開できること。 口腔外科診療の理解と全身疾患の観察ができること。				

回数	内　　容	
1	先天異常と変形　口唇口蓋裂　顎変形症	
2	損傷と顎顔面外傷	確認テスト①（１について）
3	口腔粘膜疾患①	確認テスト②（２について）
4	口腔粘膜疾患②	
5	顎口腔領域の炎症	確認テスト③（３，４について）
6	嚢胞性疾患	確認テスト④（５について）
7	腫瘍および腫瘍類似疾患	確認テスト⑤（６について）
8	顎関節疾患	確認テスト⑥（７について）
9	唾液腺疾患	
10	神経系疾患	
11	血液疾患	確認テスト⑦（８，９、10 について）
12	口腔心身症	
13	口腔外科診療における全身疾患との関わり	確認テスト⑧（11，12 について）
14	口腔外科診療の実際①	確認テスト⑨（13 について）
15	口腔外科診療の実際②と総括	確認テスト⑩（14 について）

成績評価の方法	主要項目毎、各 1 問計 10 問の確認テストと期末考査
テキスト	医歯薬出版　歯科衛生士シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」 口腔外科学問題集（講師から配布）
参考書	医歯薬出版　歯科衛生士シリーズ「臨床検査」

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】小児歯科学		担当者	平川　貴之	実務　（ 歯科医師 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	発達途上にある顎口腔機関の正常な発育を守り、これを障害する疾患や異常を早期発見に努め、これらの疾患の治療や予防を行いながら、永久歯列が完成するまで管理すること				

回数	内　　容	
1	**小児歯科学概論** **心身の発達**	小児歯科学とは、発達の概念と分類、発育状態の評価、生理的年齢、器官の発育、精神発達、機能の発達
2	**小児の生理的特徴** **顔面頭蓋の発育**	バイタルサインと生理的特徴、薬剤処方と薬物療法、脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化および発育の特徴、発育の評価法、
3	**歯の発育とその異常**	乳歯・永久歯の特徴、歯の形成、歯の発育時期と形成異常、 歯の萌出、歯の萌出異常、
4	**歯列・咬合の発育と異常**	歯列・咬合の発育、歯列・咬合の異常、
5	**小児の歯科疾患**	小児にみられるう蝕、歯周疾患、口腔軟組織の異常と疾患
6	**小児虐待**	小児虐待とは、虐待の種類、虐待の頻度と虐待者、虐待の起こる背景、身体的虐待による頭部・顔面・口腔・歯の所見、歯科とのかかわり、歯科衛生士からのアプローチ
7	**小児期の特徴と歯科的問題点** **小児歯科における患者との対応法**	乳幼児期・学童期・思春期の特徴、留意点と特徴的歯科疾患、 小児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係、歯科診療室における小児の態度と行動、年齢別にみた小児の行動と対応法、 歯科治療時の対応法
8	**小児歯科における診療体系**	小児歯科診療とその特徴、小児歯科治療における原則、診察・検査・診断、小児の歯の健康教室、小児歯科における麻酔法、小児の歯冠修復、小児の歯内療法、小児の外科処置、外傷の処置、咬合誘導、フッ化ジアンミン銀塗布、リコール（定期健診）
9		
10		
11		
12	**障害者の歯科治療**	障害児における歯科的対応、主な障害とその全身的・歯科的特徴、障害児への対応、小児の摂食嚥下障害の特徴
13	**う蝕予防**	プラークコントロール、フッ化物の応用、小窩裂溝填塞法（フィッシャーシーラント）、代用甘味料、う蝕予防のための食生活指導
14		
15	**小児の口腔健康管理** **歯科診療室と器材の管理**	目的、方法、歯科診療室の管理、器材の管理、

成績評価の方法	期末試験
テキスト	小児歯科学（全衛協編）　医歯薬出版
参考書	ポイントチェック　歯科衛生士試験対策４　医歯薬出版

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】高齢者歯科学		担当者	黒木　祐二	実務　（ 歯科医師 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位(時間数)	2 単位(30 時間)	
到達目標	高齢者における口腔の健康維持の為に必要な知識・技術を習得する。				

回数	内　容
1	高齢者の特性及び社会的問題・環境を理解する。
2	高齢者を支える保健・医療・福祉を知る。
3	高齢者にみられる全身的疾患と口腔疾患との関連を学ぶ。
4	高齢者の口腔領域の特性を知る。
5	摂食・嚥下機能を理解する。
6	中間テスト
7	高齢者の口腔領域の疾患を学ぶ（摂食・嚥下障害・口腔乾燥・その他）
8	高齢者に対する薬剤又その副作用等について理解する。
9	高齢者に対しての歯科診療時の問題点と留意点について学ぶ。
10	高齢者との接し方及び介護技術について理解する。
11	要介護高齢者の現状及び特性を学ぶ。
12	介護保険制度を理解する。
13	高齢者の歯科保健指導の基本的知識と流れを理解する。
14	訪問歯科保健指導の基本的知識と流れを理解する。
15	訪問歯科保健指導の業務記録について学ぶ。

成績評価の方法	定期試験、中間テスト、小テスト、授業態度
テキスト	歯科衛生学シリーズ　高齢者歯科学
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】臨床検査法		担当者	竹林　俊明	実務　（ 歯科医師 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位（時間数）	1 単位（15 時間）	
到達目標	患者の病態を理解し、その状態を把握するための臨床検査の基本的知識と患者に対応する知識と技能を修得することを目的とする。				

回数	内　　容
1	検査の必要性と検査方法の種類。検査成績の表し方、基準値(正常値)。
2	生体検査（バイタルテスト、心機能検査、肺機能検査等）の意義、測定方法と関連する全身疾患。
3	血液検査―血球、凝固、血液型検査を理解する。
4	全身疾患と関連する生化学検査の種類、評価。
5	感染症（細菌）検査、病理検査―概要とどのような時に必要かを考える。
6	口腔領域の検査
7	摂食・嚥下障害のスクリーニングテスト
8	その他の全身疾患と歯科治療上の注意事項　総まとめ。
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価の方法	試験、授業態度
テキスト	歯科衛生学シリーズ　臨床検査（医歯薬出版）
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	障害者歯科学		担当者	沼本　庸子	実務　（ 歯科医師 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	ｽﾍﾟｼｬﾙﾆｰｽﾞのある人たちの支援には専門知識だけではなく職種間の連携が必要です。歯科衛生士にも両者が求められ、国試では複合問題として出題されています。いろしろな障害を持つ患者さんに臨床現場でどのように接すればよいかなど、幅広い知識を身につけていきます。				

回数	内　　容
1	ｽﾍﾟｼｬﾙﾆｰｽﾞとは、障害の分類
2	障害各論Ⅰ　知的障害
3	障害各論Ⅱ　身体障害①
4	障害各論Ⅱ　身体障害②
5	障害各論Ⅲ　精神障害
6	障害各論Ⅳ　発達障害
7	中間まとめ
8	中間試験
9	障害別の口腔症状と歯科診療①
10	障害別の口腔症状と歯科診療②
11	障害別の口腔症状と歯科診療③
12	障害歯科における歯科衛生士の役割
13	摂食嚥下障害
14	地域連携
15	まとめ

成績評価の方法	中間試験（100 点満点）、後期試験（100 点満点）の合計
テキスト	医歯薬出版株式会社　歯科衛生学シリーズ　障害者歯科学
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】歯周病予防処置		担当者	清水　秀樹	実務　（ 歯科医師 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位(時間数)	2 単位(30 時間)	
到達目標	歯周病の基礎知識の確認および歯周病の評価方法、予防処置の内容を理解すること。				

回数	内　容
1	歯科予防処置論・歯科保健指導論の概要
2	歯周病予防処置の基礎知識 口腔と歯の解剖
3	歯周病予防処置の基礎知識 歯周病原細菌とバイオフィルム
4	食生活指導のための基礎知識
5	歯周病の分類
6	炎症としての歯周病 糖尿病との関連を含めて
7	歯周病と咬合性外傷、全身疾患
8	歯周病における検査
9	スケーリングとルートプレーニング ハンドスケーラー
10	スケーリングとルートプレーニング パワースケーラーと歯面研磨
11	歯科衛生過程
12	歯周病治療における非外科処置
13	歯周病治療における外科処置
14	SPT(サポーティブペリオドンタルセラピー)
15	歯周病予防処置の実際

成績評価の方法	定期試験
テキスト	歯科予防処置論・歯科保健指導論
参考書	歯の解剖学、歯周病学等

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】栄養代謝学Ⅱ		担当者	下田　裕恵	一般
時期	2 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病の予防・治療が図れる。またライフステージ別に適切な食生活指導が行えるようになる。				

回数	内　　容
1	栄養素のまとめ
2	食生活改善の取り組み（「国民健康・栄養調査」「健康日本 21（第 3 次）」
3	食生活改善の取り組み（「食事バランスガイド」「食生活指針」）
4	年代別食生活の特性　乳児期の身体的特徴と栄養
5	年代別食生活の特性　乳児期の身体的特徴と栄養　演習
6	年代別食生活の特性　幼児期の身体的特徴と栄養
7	年代別食生活の特性　学童期の身体的特徴と栄養
8	年代別食生活の特性　思春期の身体的特徴と栄養
9	年代別食生活の特性　成人期の身体的特徴と栄養
10	年代別食生活の特性　妊娠・授乳期の身体的特徴と栄養
11	年代別食生活の特性　高齢期の身体的特徴と栄養
12	食の安全について（食品衛生・アレルギー）
13	食品表示について（保健機能食品、栄養表示の使い方）、「食育基本法」
14	食品の成分と分類
15	演習・まとめ

成績評価の方法	定期試験、提出物、授業態度
テキスト	歯科衛生学シリーズ　人体の構造と機能 2　栄養と代謝（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）
参考書	日本食品標準成分表（八訂）（日本栄養大学）

令和８年度　授業計画

授業科目	歯科予防処置論実習		担当者	古林　智子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位(時間数)	1 単位(30 時間)	
到達目標	齲蝕を予防し人々の歯･口腔の健康を維持･増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を習得する				

回数	内　容
1	齲蝕活動性試験　デントカルト SM・RD テスト・CAT 21 テスト
2	〃
3	齲蝕活動性試験　デントバフストリップ・CAT21Buf　結果検討
4	フッ化物の応用（講義）
5	フッ化物の応用　フッ化物溶液・ゲル(ゼリー)の作り方(調整)実習
6	フッ化物の応用（講義）
7	フッ化物の応用　フッ化物局所塗布（相互実習）
8	〃
9	フッ化物の応用　フッ化物洗口（相互実習）
10	〃
11	フッ化物の応用　フッ化物 トレー法（相互実習）
12	〃
13	小窩裂溝添塞法（マネキン実習）
14	〃
15	フッ化ジアンミン銀 の手指および布への着色・脱色実習 まとめ

成績評価の方法	期末試験　実習態度　提出物
テキスト	【歯科衛生学シリーズ 】歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬） 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第 2 版
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	歯科保健指導論実習		担当者	有田　泰子	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	2 年次　後期	必修	単位(時間数)	1 単位(30 時間)	
到達目標	歯科衛生過程の考え方を学び、これまでに習得した知識・技能・態度をもとに歯科衛生過程を実践できる技術を修得する。				

回数	内　容
1	歯科衛生過程とは①
2	歯科衛生過程とは②
3	衛生士理論・医療面接
4	歯科衛生アセスメント①（情報収集）
5	歯科衛生アセスメント②（情報整理①）
6	歯科衛生アセスメント③（情報整理②）
7	歯科衛生アセスメント④（情報の解釈・分析）
8	歯科衛生診断
9	歯科衛生計画（歯科衛生計画の立案）
10	歯科衛生介入・評価・記録（書面化）
11	演習：歯科衛生過程　アセスメント①
12	演習：歯科衛生過程　アセスメント②
13	演習：歯科衛生過程　診断
14	演習：歯科衛生過程　計画立案
15	演習：歯科衛生過程　介入・評価

成績評価の方法	定期試験・出席状況・授業態度・提出物
テキスト	最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 よくわかる歯科衛生過程
参考書	歯科衛生過程 HAND BOOK・事例でわかる歯科衛生過程

令和８年度　授業計画

授業科目	歯科診療補助論実習		担当者	大島詩織	実務（ 歯科衛生士 ）
時期	2 年次 後期	必修	単位(時間数)	1 単位(30 時間)	
到達目標	・成形歯冠修復の用途・取り扱い・修復の手順を理解し、直接修復、器具のセッティングを実施することができる				

回数	内　容
1.	成形歯冠修復の補助①
2.	成形歯冠修復の補助②
3.	成形歯冠修復の補助(隔壁・歯冠分離)①
4.	成形歯冠修復の補助(隔壁・歯冠分離)②
5.	成形歯冠修復の補助(実習)①
6.	成形歯冠修復の補助(実習)②
7.	成形歯冠修復の補助(実習)③
8.	成形歯冠修復の補助(実習)④
9.	歯科麻酔時の診療補助
10.	歯周パック
11.12.	器具セッティング
13.	口腔内写真撮影①
15.	まとめ
16.17.	口腔内写真撮影②③

成績評価の方法	定期試験、授業・実習態度、提出物、身だしなみ
テキスト	歯科衛生士学シリーズ 歯科診療補助論　第２版，歯科材料，歯科器械
参考書	イラストと写真でわかる 歯科材料の基礎　第５版

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】隣接医学		担当者	更科　俊洋	実務　（ 医師 ）
時期	3 年次　後期	必修	単位（時間数）	1 単位（15 時間）	
到達目標	内科学と歯科領域の関連についての認識を高める。				

回数	内　　容
1	医学概論：内科学概論，内科診断学，内科症候学
2	内科学概論：内科診断学，内科治療学，内科症候学
3	内科学概論：内科治療学（循環器疾患，代謝疾患，内分泌疾患など）
4	内科学概論：内科治療学（循環器疾患，代謝疾患，内分泌疾患など）
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価の方法	小テストなど
テキスト	医学概論（改訂 7 版）コメディカルのための専門基礎分野テキスト　中外医学社 歯科衛生士のための全身疾患チェアサイド BOOK　基礎知識・患者の生活上の注意点・口腔との関連・診療時の TO DO　クインテッセンス出版株式会社
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】隣接医学		担当者	梅森　洸樹	実務　（ 医師 ）
時期	3 年次　後期	必修	単位（時間数）	1 単位（15 時間）	
到達目標	内科と歯科との関連についての認識を高め学習法を学ぶ				

回数	内　　容
1	各論(感染症、呼吸器)
2	〃(消化器、代謝、内分泌)
3	〃(泌尿器、運動器、神経)
4	〃(その他)
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

成績評価の方法	レポート(講義に関して)
テキスト	医学概論（改訂 7 版）コメディカルのための専門基礎分野テキスト　中外医学社 歯科衛生士のための全身疾患チェアサイド BOOK　基礎知識・患者の生活上の注意点・口腔との関連・診療時の TO DO　クインテッセンス出版株式会社
参考書	

令和８年度　授業計画

授業科目	【講義】看護保健論		担当者	河野　恵子 三宅　和代	実務
時期	3 年次　後期	必修	単位（時間数）	2 単位（30 時間）	
到達目標	歯科衛生士としての知っておきたい看護の基礎知識や基礎技術を習得する。				

回数	内　　容
1	看護の定義　看護の役割と機能
2	看護の対象理解
3	フィジカルアセスメントの概要
4	健康のとらえかた
5	糖尿病・高血圧
6	生体情報のモニタリング
7	呼吸器疾患（過換気症候群・気管支喘息）
8	虚血性心疾患・アナフラキシーショック
9	救命救急処置
10	精神疾患
11	脳血管障害・てんかん
12	バイタルサインの測定
13	多職種連携・援助技術の協働学習
14	多職種連携・援助技術の協働学習
15	疾患看護のまとめ

成績評価の方法	定期試験（ミニテストを含む）および受講態度
テキスト	全身疾患チェアサイドＢＯＯＫ　クインテッセンス出版
参考書	看護とは何かを学び、歯科衛生士として、生かせる看護の知識・技術を習得しましょう